



学校便り



「 2学期を迎えて 」

校長 鈴木 常義

令和8年7月28日に熊本県熊本地方を震源として発生した地震により被災された皆さまに、お見舞い申し上げます。余震や暑さなど、予断を許さない状況が続いておりますが、被災された方々の安全と健康が守られますこと、そして被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

保護者の皆さまにおかれましては、日頃より本校の教育活動に御理解、御協力をいただき心より感謝申し上げます。今年は例年にない厳しい暑さや水害、水難事故が続きましたが、有意義な休日を過ごすことができましたでしょうか。

始業式では夏季休業中の振り返り、2学期頑張ることについて話をしました。2学期は全ての学年にとって大切な時期です。1学年は10月下旬に移動教室があります。2・3学年にとっては卒業後の進路を決める現場実習があります。12月には日頃の学習の成果を発表する「かつとく祭」があります。一人一人が目標をもって取り組んでほしいと願っています。

1年生のみなさんは職場見学など、卒業後の生活を知るための学習が始まります。実際の仕事の現場を見ることによって、自分自身の興味・関心、適性を知るきっかけになります。2・3年生のみなさんは現場実習での経験を生かして、自分自身の将来について具体的なイメージをもって進路先の決定につなげていってほしいと考えています。

今学期も、生徒のみなさんが健康で充実した学びに満ちた2学期を過ごせるように、教職員一同、力を合わせて全力で支援してまいります。保護者、地域の皆さまにおかれましては、引き続き御支援と御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

「 夏の研修会 」

支援部主任 関根 和広

夏季休業中の7月31日(金)『自閉症当事者から学ぶ 本当に助かる支援とは』を研修のテーマに、今年度はNP0法人リトルプロフェッサーズ代表の片岡 聡先生をお招きしました。片岡先生は、東京大学薬学部を卒業後、大学助教や製薬会社の研究職を経て、現在は自閉スペクトラム症のある方の様々な研究を行っており、特別支援学校の外部専門員としても、自閉症の問題解決へのアイデアなどを提供しております。

研修会では、御自身の紹介をとおして、発達期の困難さや環境（食生活など）を変えることで感覚過敏に変化があったこと、小学校から大学院までノートを取らなかったことなど、特性を中心に分かりやすく説明していただきました。また、フラッシュバックや感覚過敏等による、「本人にとって表現できない状態」や「耐えられない状況」などから、多動や不安定、自傷など、様々な行動を起こすこと。そして、その行動は、「①いつからその行動が始まったのか」「②その行動が起きる条件は何か」「③それは自閉症由来の行動なのか他に原因があるのか」などが分かれば、避けたり改善したりすることができ、落ち着いた環境づくりができることを教えていただきました。参加者から事前に募った質問にも、一つ一つ丁寧に回答いただき、大変、有意義な研修会となりました。

研修会には、本校教員の他、近隣小学校や中学校の教員、また関係機関の職員の方なども参加されました。今回の研修をとおして、参加した方々が研修会で学んだことを、日々の教育活動や支援の内容に生かしていただき、子供達のより良い生活やさらなる成長につながることを願っています。



学校便りは音声でも確認できます。



学校便りの配布時期と学校サイト掲載日は前後する場合があります。